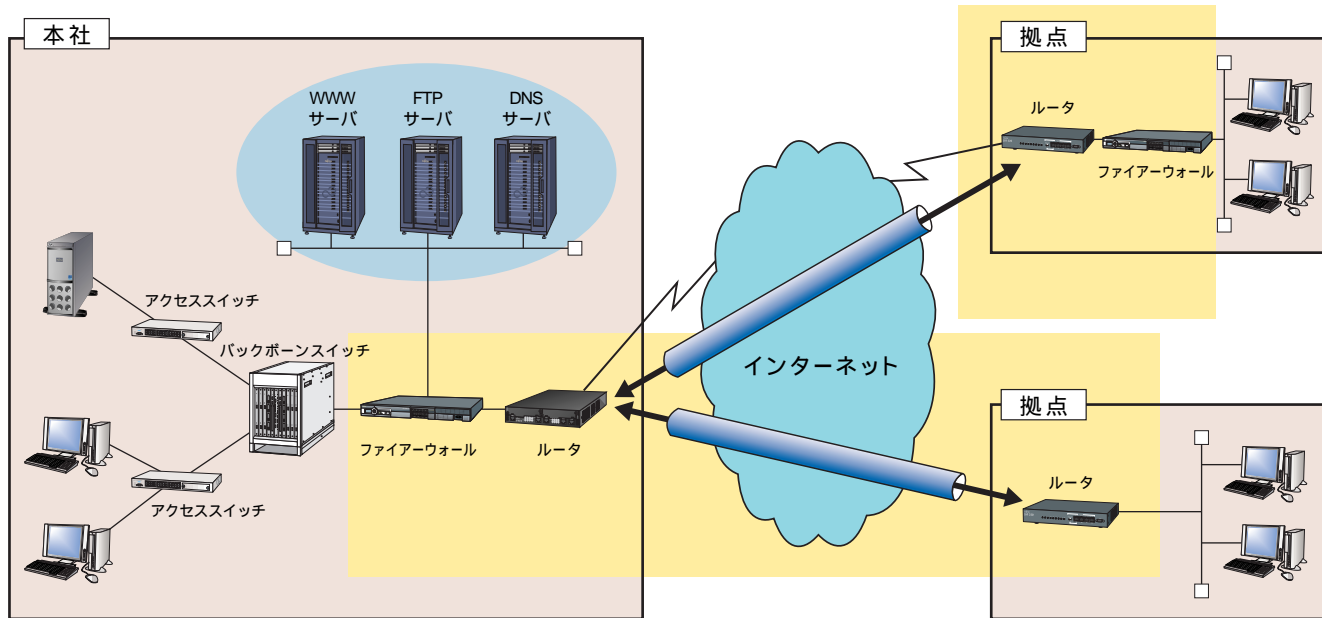


## ブロードバンド時代の本格到来で、企業ネットワークが急速に進化

現在、各キャリアのブロードバンドネットワークサービスが充実し、インターネットのビジネス利用が加速しています。企業のネットワークシステムには、信頼性・セキュリティ・通信品質の確保や、ブロードバンド化に対応する高い性能が求められています。

富士通では高度なセキュリティ機能により、企業ネットワークの安全を確保するファイア・ウォールNetShelter、高度な負荷分散／帯域制御を実現するIPCOM、VPN機能やQoS機能など、高品質・高信頼のブロードバンドサービスを提供するIPアクセスルータSi-Rシリーズ、負荷分散・帯域制御に加え、ファイア・ウォール・ルータ機能を備えたIPCOM Sシリーズをラインナップ。これらの製品群により、お客様のネットワークシステムを構築するための最適なソリューションを提供します。

WAN全体図 : WANの範囲

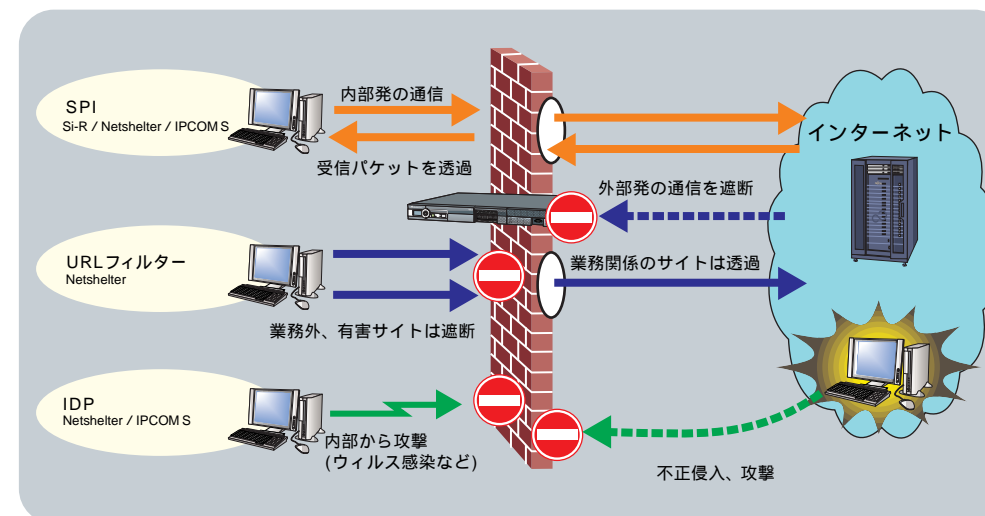


ネットワークサーバ ファイアウォール 負荷分散／帯域制御	IPCOM Sシリーズ ➡ P17へ	ルータ、ファイアウォール、負荷分散、帯域制御といったインターネット／イントラネットの構築、すなわちWANに不可欠な機能を統合した高性能ネットワーク装置です。
	IPCOM ➡ P21へ	ハイレイヤー（レイヤー7）での負荷分散／帯域制御の機能を提供します。帯域制御専用の低価格モデルから、負荷分散／帯域制御専用モデルまで幅広いラインナップをご提供いたします。
	NetShelter ➡ P25へ	高度なセキュリティ機能により、ネットワークを外部からの不正アクセスやデータの改ざんから守るファイアウォール／ウイルスウォール専用装置です。
ルータ／VPN	Si-Rシリーズ ➡ P32へ	高品質なIP-VPN／ブロードバンドサービスに対応したIPアクセスルータです。拠点の規模に応じた多様なラインナップをサポートしています。

## 企業内／外を問わずネットワーク自体に高度なセキュリティを提供

インターネットからの不正アクセスやデータの盗聴・改ざん、企業ネットワーク内からの有害サイトへのアクセスやウイルスの誤配信など、企業内／外のネットワークは常に不安にさらされています。

富士通のWAN製品では、このような事態に対し、SPI<sup>※1</sup>、URLフィルター、IDP<sup>※2</sup>などの高度なセキュリティ機能を数多くサポート。お客様に高信頼な企業ネットワークを提供します。



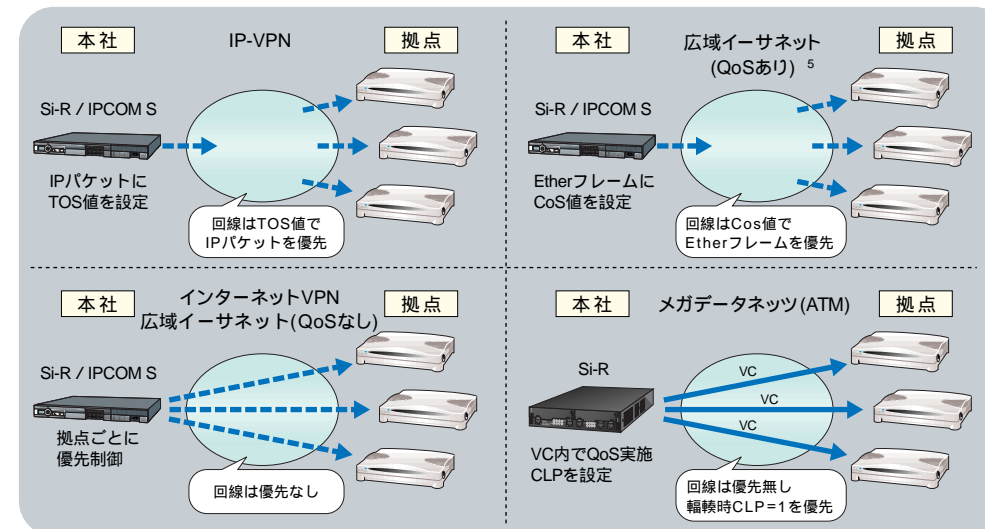
※1 SPI (Stateful Packet Inspection): 通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して動的にポートを開放・閉鎖する機能。  
 ※2 IDP (Intrusion Detection and Prevention): 通過パケットに対して抽出・分析を行い、不正アクセスに該当した通信を遮断する機能。

## さまざまな通信が相乗りするIPネットワークを高いレベルで安定した品質を提供

IP-VPN／広域イーサネット／インターネットVPN／メガデータネットなどのキャリアサービスに対応した機能を提供します。

回線サービスに応じたQoS<sup>※1</sup>機能が利用できます。

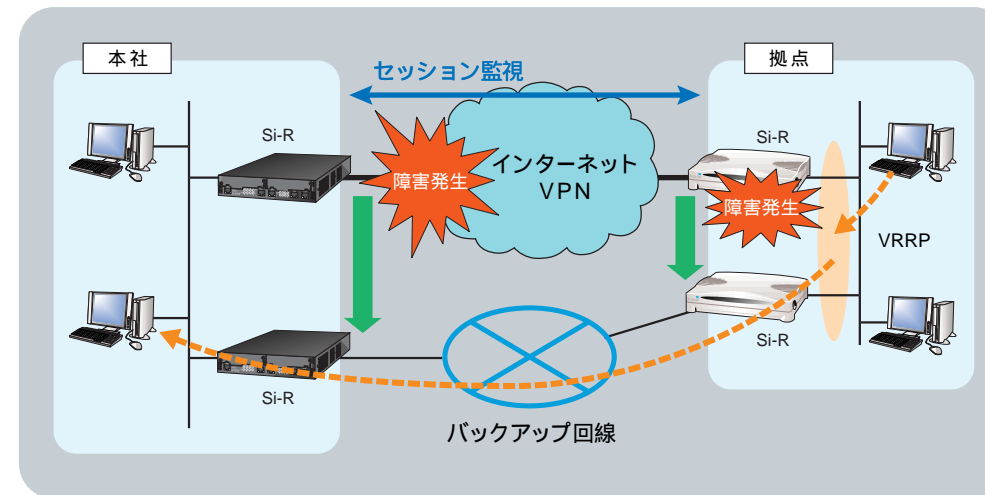
- IP-VPN  
IP-VPN網のQoSに合わせてTOS値を設定／変換。
- 広域イーサネット  
広域イーサネット網のQoSに合わせてCoS<sup>※2</sup>値を設定変換。
- インターネットVPN  
回線にQoSはなく、相手拠点ごとに帯域を設定しQoSを実施。
- メガデータネット  
回線にQoSはなく、各VC<sup>※3</sup>の速度に合わせたQoSを実施。一部帯域保証型には、ネットワーク網にてCLP<sup>※4</sup>設定で対応。



※1 QoS (Quality of Service): ネットワーク上で、ある特定の通信のための帯域を予約し、一定の通信速度を保証する技術。  
 ※2 CoS (Class of Service): 通信品質の保証や帯域確保などを実現するQoS技術の一種。  
 ※3 VC: ATM網でルーティング処理される最低単位の論理チャネル。  
 ※4 CLP (Cell Loss Priority): セル廃棄優先順位。  
 ※5 日本テレコム (Wide-Ether)、NTTコミュニケーションズ (e-VLAN) などのオプションにより、QoS機能を提供。

## 万が一に備えた極めて信頼度の高い運用性を確保

- Si-RはVRRP<sup>※1</sup>機能により装置2台の現用／待機を切替え、通信を継続させることができます。ダイナミックルーティングが利用できない回線でも接続先を監視し、通常経路に障害が発生した場合、バックアップ経路に切り替えて通信を継続させることができます。両方のルータを現用として負荷分散、相互バックアップを行うことも可能です。
- IPCOM Sシリーズも、ホットスタンバイ機能により装置2台の現用／待機の切り替えが可能です。(S1000を除く)



※1 VRRP (Virtual Router Redundancy Protocol): ルータの多重化を行なうためのプロトコル